



# よつば会だより

2024年10月号

発行：毎月1回

尾道こころネットよつば会事務局

尾道市 栗原町 5083-1

TEL 0848-23-8755

先月号の「よつば会だより」のこの欄に「寒いね今日はという挨拶を交わすようになる日も、やがてはやってくるでしょう」と書きました。それから1か月たちましたが、その間の暑さが猛烈でした。9月22日秋分の日から少し気温が下がりましたが、新聞に掲載されている広島の前々日、20日の最高気温と平年の最高気温(かつこ内)は、33.9(28.4)で、平年より5.5度高くなっていました。最低気温も27.4(20.5)と平年より6.9度も高く、今年の最低気温が平年の最高気温とほぼ同じという状況でした。この9月20日の暑さが9月に入ってもずっと続いていて、今年は秋が来ないのかと思っていました。今年の、この記録的な9月の暑さを記録しておきたくて取り上げてみました。



## ～みんなねっと～ 北海道全国大会への期待



全国精神保健福祉会連合会(通称「みんなねっと」)の北海道全国大会が10月12日に札幌市で開催されます。今年の大会テーマは、「対話を家族のものに 孤立から支援の輪のなかへ～真のつながりを求めて」となっています。分科会が3つあり、第1分科会のテーマが「やってみよう家族の**当事者研究**」、第2分科会が「本人・家族・支援者のみんなでコミュニケーションしよう～**メリデン版訪問家族支援**のもたらすもの」、第3分科会が「家族の語りを聞く**オープンダイアログ**」となっています。こうして分科会のテーマを並べてみると、いずれも精神医学とは離れたところでの、対話によって精神の病の改善をもたらす働きかけです。北海道の浦河町に当事者研究の舞台である「べてるの家」があることからの着想と思えるところではありますが、私には精神科医療に対して新しい扉を開こうという呼びかけを意図した北海道大会と映りました。

そして、大会全体のテーマが、「対話を家族のものに」となっています。このテーマで、「対話」がこの大会の全体を貫く言葉になっていることがうかがえます。しかし、対話という言葉に「家族のものに」という言葉が続いていますが、その意味が分かりません。辞書で「ものに」という言葉を引いてみましたが載ってなくて、「ものにする」という言葉に習得する、手に入れるの意味があることで、「対話を家族のものにする」を考えてみましたが、ピンときませんでした。もう一つ、第3分科会のオープンダイアログにも、「家族の語りを聞く」という言葉がついています。これもどう理解すればよいのか分かりません。全国大会に参加して基調講演や分科会の討議に参加すれば分かってくるのだと思います。しかし、私は2年前のみんなねっと広島全国大会に参加しましたが、マイクを通して語られる言葉が、私の耳では音量としては入ってくるが言葉として聞き取ることがまったくできなかったことで、大会参加はあきらめました。基調講演などの要旨は「みんなねっと」誌にやがて掲載されます。その記事を読んで、改めて「家族のものに」の意味を考えてみます。いずれにしても、今年のみみんなねっと全国大会が対話を軸にした精神疾患への対応を取り上げていることに、意味を感じます。オープンダイアログもみんなねっと全国大会で取り上げられたとなると、関心のもたれようも大きくなり、これからの国内におけるオープンダイアログの発展を加速させてくれるのではという期待を抱かせてくれます。

このようなことを考えていると思出すのが、4月に厚労省に活動の場を変えた西川浩司さんです。よつば会がNPO法人を立ち上げる前から、その頃の「のぞみ会」の家族会会員に対して月に1回「家族のSST」を開いてくれていました。会が始まると、待ってましたとばかりにしゃべり出す何人かの話を、西川さんは静かに聞いていて、時折言葉を入れていました。その西川さんの時折の言葉を聞くために、私はSSTに参加していました。

### 9月の活動報告

08日 当事者との交流会 (サロンよつば)

15日 よつば会家族教室 (市民センター)

### 10月の活動予定

13日(日) 当事者との交流会 (サロンよつば)

20日(日) よつば会家族教室 (市民センターむかし島)

27日(日) オープンダイアログ研修会 (福祉センター)





## ～オープンダイアログ～ 「研修会開催」のいきさつ



10月27日(日)に、「おのみち語り工房」が「オープンダイアログとは何かの紹介とその実践」というテーマでの研修会を尾道市総合福祉センターで開催することになりました。そのいきさを振り返ってみます。

今年4月に、河原さんご夫妻が「サロンよつば」やってきて、オープンダイアログについて話し合う「おのみち語り工房」を立ち上げて、月に1回第4日曜日に尾道総合福祉センターで話し合いを持っているなどの話をされました。私はオープンダイアログのことは「みんなねっと」誌の記事で、うすうす知ってはいたのですが、詳しいことは知らずにいました。その後、河原さんに「よつば会家族教室」にきてもらったり、私が「おのみち語り工房」の集いに参加したりしてきました。

私には以前から何となくオープンダイアログに期待するところがありました。それは、現在の精神医学では、統合失調症の患者などに対して、投薬である程度の病状の落ち着きをもたらすことはできるが、完治の状況に導くことはできないという思いがありました。しかし、オープンダイアログは対話をするだけで統合失調症などの状況を改善することができるということのようです。精神科医師にとっては、自分たちのよりどころとなる精神医学が疑われることにもなります。それだけに、精神科医師はオープンダイアログを、まずは否定の目で見ることでしょう。しかし、オープンダイアログで統合失調症が改善したという実績が、国内で数多く積み重ねられると、医師も否定していることもできなくなります。そのようになるためには、オープンダイアログを多くの人に知ってもらう必要があるでしょう。

そんな思いを持った私だったので、河原さんが「おのみち語り工房」の話をもってこられたとき、かなり前向きに話を聞きました。そして、私が「おのみち語り工房」の集いに参加したときに、河原さんに「オープンダイアログとは何か」という問いかけをしました。今振り返ってみて、この問いかけはすぐには回答がむづかしい問いかけでした。私の問いかけを聞いていた集会への参加者から、「くらしき語り工房の人かその周辺の人に、尾道で話してもらえるように頼んでみたらどうか」という提案がなされました。その提案を受けて河原さんが連絡を取り、10月27日(日)に「オープンダイアログ研修会」を開催することになりました。その案内のチラシを、このよつば会だより10月号に同封しています。

私は、日本におけるオープンダイアログの草分け的存在の筑波大学教授の斎藤環さんの著書「やってみたくなるオープンダイアログ」を読みました。読んだなりにオープンダイアログについていろいろと知ることができましたが、わからないこと、疑問に思うこと、もっと知りたいこともつぎつぎと出てきました。

いくつか挙げてみます。

- オープンダイアログによって統合失調症などの病状が明らかに改善したという事例は、国内にどの程度あるのか。
- 統合失調症の初期症状に効果的と書いてあったが、子が統合失調症を発症した初期段階には、親は何かわからないままに何とか精神科病院につなぐことしか思いつかなかった。初期段階でオープンダイアログをとるのは無理な話ではないか
- オープンダイアログを受ける際に、当事者や家族にオープンダイアログについての知識はあってもいいのか、または、知識は邪魔になるのか。

その他いくつも質問はありますが、ここでは置いておき、研修会で外山さんのお話を聞いてからにします。

(N.T)